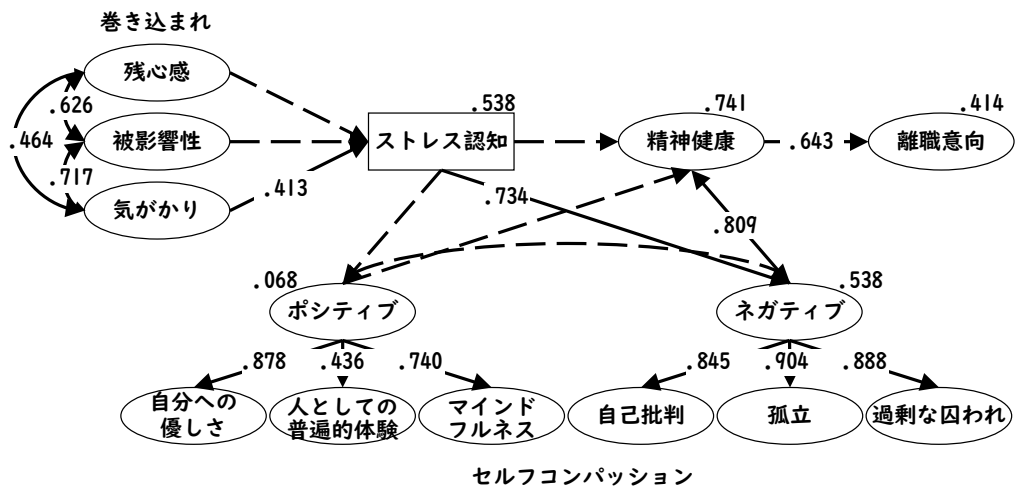


2022年度 独創的研究助成費 実績報告書

2023年3月27日

申請者	学科名	看護学科	職名	教授	氏名	實金栄
研究課題	訪問看護師の看護実践における倫理的苦痛への関連要因検討					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	實金栄	保健福祉学部看護学科, 准教授	老年看護学	研究統括, 計画, 実施, 成果発表	
	分担者	井上かおり	保健福祉学部看護学科, 助教	老年看護学	実施, 成果発表	
研究実績の概要	分担者	名越恵美	保健福祉学部看護学科, 准教授	がん看護	実施, 成果発表	
	<p>【目的】 在宅医療・ケア提供においては、解決困難な課題に出会うことが多い。それらの課題に対して、早急に解決することを目指すだけでなく、その課題における苦悩を患者らと共に味わいつつも、解決のタイミングを待つことも必要である。つまり不確かさの中で事態や状況を持ちこたえ不思議さや懐疑の中にある能力：Negative Capability（帚木，2017）が医療・ケア提供者には求められ、これにはケア提供者がSelf-Compassion（SC：自身への思いやり）を発揮することが重要ではないだろうか。そこで本研究は個人の特性（SCやOver-Involvement：OI巻き込まれ）と倫理的問題に対するストレス認知、離職意向との関連を明らかにすることを目的とした。</p> <p>【方法】 A県の訪問看護師585人を対象に自記式質問紙調査を行った。調査項目は、OI（残心感、被影響性、気がかり）（牧野ら，2009）、倫理的問題に関連するストレス認知（ストレス）（小薮ら，2019）、ポジティブSC：pSC（自分へのやさしさ、人としての普遍的体験、マインドフルネス）、ネガティブSC：nSC（自己批判、孤立、過剰な囚われ）（石村ら，2014）、精神健康（川上ら，2010）、離職意向（鄭ら，2003）で構成した。分析は、OIがストレスに関連し、ストレスが直接およびSCを介して精神健康に影響し、さらに離職意向に関連するとした仮説モデルを構造方程式モデリングにより検討した。</p> <p>【結果】分析対象者は142人であった。仮説モデルを検討した結果、OIの気がかりはストレスを高め、ストレスはnSCを介して精神健康を悪化させていた。さらに精神健康の悪さは離職意向を高めていた。</p>					



RMSEA=.053 CFI=.948 WLSMV推定法 n=142

【考察】困難な課題に巻き込まれることでストレスを高く認知し、そのような状態においてnSCであることは精神健康を悪化させる。したがって困難な課題に対して個人の努力で対応するのみでなく、ケアカフェのような場での他者から承認や、スーパーバイザーによる支援が必要ではないだろうか。

(第5回在宅医療連合学会学術集会発表予定より)

成果資料目録

学会発表

第5回在宅医療連合学会学術集会発表予定 (2023年1月投稿中)

論文発表

日本看護福祉学会投稿予定 (2023年8月投稿予定)